

Schreinemakers 滲透の理論

堀 場 信 吉

Schreinemakers は三成分系液の滲透に就て1927年來多數の論文を和蘭學士院報に發表してゐる。此處にその詳細なる紹介をなす事は不可能であるが彼が滲透の徑路の圖示法には獨特の興味があるからその大要を述べる。

1 圖 示 法

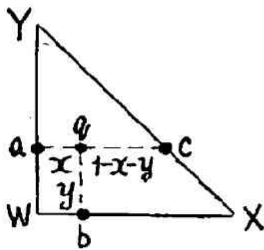
三成分系を圖示するに正三角の坐標を採らずして二等邊直角三角形を採る。(第一圖) 三成分系をX, Y, 及び W で表はし W を水とする。X+Y+W=1 とし三成分の組成は

$$xgm. X + ygm. Y + (1-x-y) gm. W$$

$$\text{又は} \quad xgm. molX + ygm. molY + (1-x-y) gm. mol. W$$

にて示す。然る時は三角坐標の頂點 X, Y, W を各 X, Y, W の純粹なるもの

第 一 圖



の點とせば三角形内の一點 q の組成は $aq=x$ (Xの量) $bq=y$ (Yの量) $cq=1-x-y$ (Wの量) を示す事となる。今 q 點を通じて XY に平行に引ける線上の各點は W の量が常に一定なる點である。今二つの液 L_1 L_1' を採る。其の組成は各々

$$x_1(X\text{の量}) + y_1(Y\text{の量}) + (1-x_1-y_1)(W\text{の量})$$

$$x_1'(X\text{の量}) + y_1'(Y\text{の量}) + (1-x_1'-y_1')(W\text{の量})$$

であるとし L_1 の n_1 量と L_1' の n_1' 量の混合物即ち新しき液 L の n_1+n_1' 量を得た時其の組成は

$$x(X\text{の量}) + y(Y\text{の量}) + (1-x-y)(W\text{の量})$$

—(紹介)—

み切る。

3. 等滲曲線が W 点より遠ざかるもの程滲透的水の引力 (Osmotic water attraction; O. W. A.) が大である。

今第二圖の c 点及び q 点で表される液 L_c L_q が滲透的接觸をしたとする。然る時は L_q の O. W. A が L_c の O. W. A. より大であるから水は L_q より L_c に彌散する。 L_c の組成は Wcf 線にそひ矢の方向に進み, L_q の組成は qW の線の矢の方向に進み, ある一つの等滲曲線上例へば ab 曲線上の g 及び i にて平衡状態になる。即ち

$$L_q | L_c$$

矢は水が左より右に彌散する事を示す。今 h 点から XY に平行に dK を引けば其の線上の各点は皆全一の W の量を有してゐる。然し O. W. A に就ては L_c , L_h のみが全一であり df, hk の各点の液は L_h , L_q よりは大なる O. W. A を有し fh の間の各点は少なる O. W. A を有してゐる。従つて

$$df, hk \text{ 間の } L | L_h$$

及び

$$fh \text{ 間の } L | L_h$$

矢の方向は水の彌散の方向を示してゐる。

fh の外の p 点の液の如きは L_h よりは W の量少なるに關らず L_h の O. W. A より少である。従つて

$$L_p | L_h$$

かくの如く水が少なる量の方より大なる方に彌散する場合を吾人は非正規の彌散と名づけやう。

滲透平衡に達する徑路の中 X, Y, W 各成分の量の變化を見るに種々の場合が存在する。今兩液の接觸の始めに於て一つの成分に就て左の方の液の組成が常に少であるとする。然る時

1) 左液に於て其組成増加し右液にて減少なる場合

(4) (堀場信吉) Schreinemakers 滲透の理論

$\uparrow < \downarrow$

2) 左右兩液共其の組成増加する場合

$\uparrow < \uparrow *$

3) 左右兩液共其の組成が減少する場合

$* \downarrow < \downarrow$

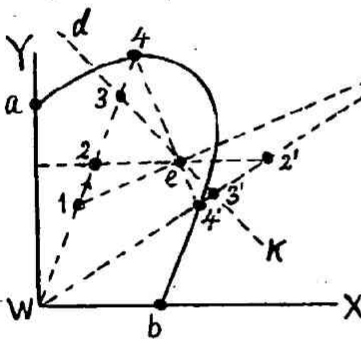
4) 左液に於て其の組成が減少し右液に於て増加する場合

$* \downarrow < \uparrow *$

の各種がある。* を附したる場合は非正規の變化である。

今第三圖に於て 1, 1' 點にあたる L_1, L_1' 液を各 n_1, n_1' とする。此を隔膜と

第 三 圖



接觸せしめて其の平衡に達する徑路を見るに $n_1 \times L_1 + n_1' \times L_1'$ なる錯體 (Complex) は 1-1' 線上の一點にて示さるべき事は前に述べた。而してその平衡に達する徑過に於て L_1 は W4 線上にそひ矢の方向に水を失ひ L_1' は 1'W の線上に矢の方向にそひて水を得る。而して ab を一つの等滲曲線とせば L_1, L_1' にて平衡に到達する。今 e 點を通じて WX に平行に 22' 線を, XY に平行に dk 線を引く時 L_1 が L_4 になる徑路を 1-2, 2-3, 3-4 の三つに分かつ事が出来る。其の間の X, Y, W の變化を見れば圖から明かなるが如く

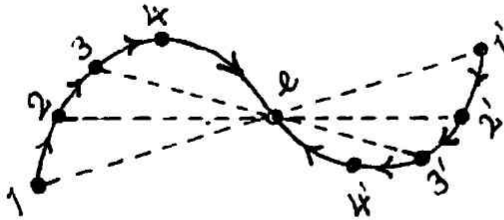
	X	Y	W
1-2	$\uparrow < \downarrow$	$\uparrow < \downarrow$	$\downarrow > \uparrow$
2-3	"	$* \uparrow > \downarrow *$	"
3-4	"	"	$* \downarrow < \uparrow *$

—(結 介)—

III 三成分の滲透

今 X, Y, W の三成分共に膜を通じて彌散する時其の滲透の徑過を吟味して

第 四 圖



見様ふ。第四圖 1, 1' にて L_1, L_2 を示して其の兩液が膜平衡に達する際一様の組成になるべきで其の點を e で表せば e は 1, 1' 線上の一點である。最初の採つた錯體が $n_1 \times L_1 | n_1' \times L_1'$ であつたとすれば

既にのべた如く(第一項)

$$Xe = \frac{n_1 X_1 + n_1' X_1'}{n_1 + n_1'}, \quad Ye = \frac{n_1 Y_1 + n_1' Y_1'}{n_1 + n_1'}$$

であつて

$$e-1 : e-1' = n_1' : n_1$$

の關係が保たれてゐる。滲透の徑路が 1-2-3-4-e, 1'-2'-3'-4'-e の如く進めば 2, 2' 點にては錯體は $n_2 \times L_2 | n_2' \times L_2'$ であつて

$$e-2 : e-2' = n'' : n'$$

3, 3', 4, 4' に就ても同様であつて

$$n_1 + n_1' = n_2 + n_2' = n_3 + n_3' = \dots\dots$$

の關係が保たれてゐる。2, 2' ; 3, 3' 等を共扼點と云ふ。

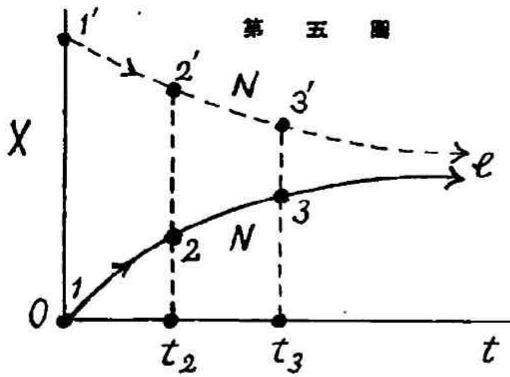
X, Y, W の時間的變化の關係を見るに第五, 第六, 第七圖の様である。組成の少なるものが必しも増大するに限らず非正規の變化が存在する。第七圖の變化を符號で示せば

$$\begin{array}{cccccc} 1.2 & 2 & 2.3 & 3.4 & 4.e \\ \downarrow < \uparrow & * \downarrow = \uparrow * & * \downarrow < \uparrow * & \uparrow < \uparrow * & \uparrow < \downarrow \end{array}$$

——(紹介)——

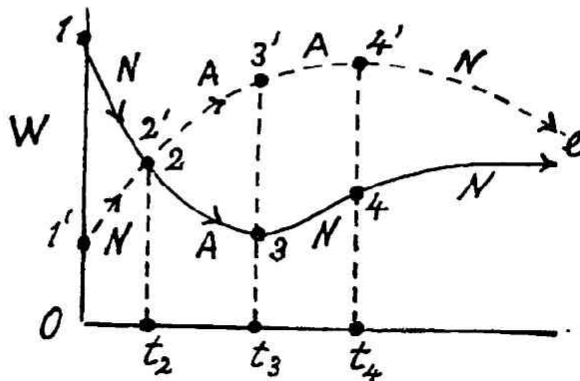
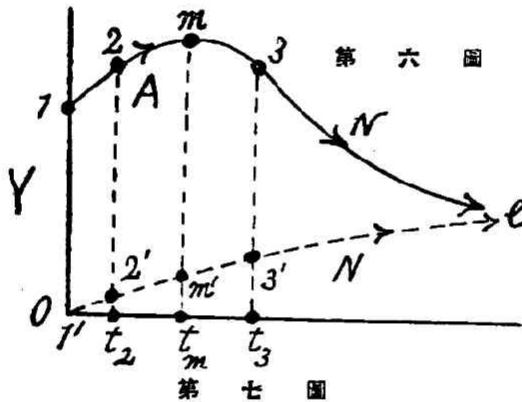
(6)

(堀場信吉) Schreinemakers 浸透の理論



星記號を付したものは非正
規の變化である。

$X=\text{NaCl}$, $Y=\text{Na}_2\text{CO}_3$,
 $W=\text{H}_2\text{O}$ として豚の膀胱
を隔膜として用いた實驗の
一例を舉げる。



—(紹 介)—

(堀場信吉) Schreinemakers 滲透の理論

(7)

t 時間	X	Y	W	X	Y	W	X	Y	W
1 0	0	8.637	91.363	17.584	0	82.416	1-4	$\uparrow < \downarrow$	$\downarrow > \uparrow$
2 7	0.9376	8.435	90.627	16.771	0.2155	83.014			
3 20	2.624	8.006	89.370	15.109	0.6123	84.279	4-6	"	" $\downarrow < \uparrow$
4 44	4.954	7.278	87.768	12.843	1.273	85.884			
5 68	6.401	6.635	86.914	11.428	1.816	86.756	6-7	"	" $* \downarrow > \uparrow *$
6 92	7.317	6.160	86.523	10.472	2.298	87.230			
7 118	7.839	5.738	86.423	9.870	2.732	87.398	7-8	"	" $* \downarrow < \uparrow *$
8 165	8.397	5.198	86.405	9.272	3.315	87.413			
6 214	8.601	4.856	86.543	9.072	3.728	87.200	8-9	$\uparrow < \downarrow *$	" $\uparrow < \downarrow$

文 献

F. A. H. Schreinemakers: Proc. K. Akad-wet. Amsterdam. 30. 761 (1928)

以下十数編

Journ. Gen. Physiology. 11.701 (1928)